

残暑お見舞い申し上げます

ご挨拶

理事長 大野 風 柳

日頃のご声援ありがとうございます。

さて最近しみじみと思うことがあります。

長い間、川柳に関わっておりますと、時代と共に川柳も変わって来ております。その変わるといふことは、変わる前を切り捨てることなく、むしろ変わる前を逆に生かし乍ら新しいものを加えて来ていると思うのです。

つまり、過去をゼロにしてはいけない、そういうことだと思っております。更に私たちが生きている世の中の環境も無視できません。そういう中で私達は川柳と取り組んでおります。

日川協通信 (115)

平成28年9月1日



一般社団法人全日本川柳協会

〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目

北一一一九〇五

電話 (06) 6352-2210

FAX (06) 6352-2433

振替口座 00970-9-3575

<http://www.nissenkyou.or.jp>

私はいろいろな川柳を、いや文芸川柳を幅広く受け入れていいと思います。最近の川柳がなんとなく、ひとつの固まりになり過ぎてしまったようにも思われます。

この辺を大いに語り合う必要を感じています。

いま、川柳誌を開いてみても「川柳論」が殆どありません。何もむつかしい論を求めるまでもなく、単純に「川柳とは」とか、もう少し具体的に「私の川柳」についての論があつていいのではないのでしょうか。

作品を選ぶことの中にもそれが見えてこないのです。

「川柳を選ぶ」ことと「川柳を語る」こととの調和を語りたいものです。

それは柳歴には関係なく小さな句会の中でもできるとだと私は思っております。

皆さんのご意見をお待ちしております。

熊本震災の義援金 ご協力ありがとうございました

(合計金額 839、685円) 熊本川柳協会へ送金いたしました。

◎協力をいただいた方々・敬称略

〔北海道〕

岡崎 守・浪越 靖政

橋爪まさのり・八木 柳雀

北海道川柳研究会

〔青森〕

川柳塔みちのく・弘前川柳社

〔秋田〕

川柳銀の笛吟社

〔宮城〕

川柳けせんぬま吟社

〔福島〕

川柳能因会

〔茨城〕

川柳ひたち野社・土浦芽柳会

〔埼玉〕

つくばね番傘川柳会

〔栃木〕

佐藤 美文・渡辺 梢

〔群馬〕

熊谷川柳三昧会

〔栃木〕

荻原 鹿声・下野川柳会

〔群馬〕

秋山 春海・田中寿々夢

〔群馬〕

川柳竹柳会

〔千葉〕

及川竜太郎・大川 晩翠

〔千葉〕

島田 駱舟・千葉 絹子

〔千葉〕

中島 宏孝・堀江 加代

〔千葉〕

川柳会 新樹・川柳新潮社

楽しい川柳会・松戸川柳会

やちまた川柳会

わかしお川柳会

〔東京〕

齊藤由紀子

足立川柳会・川柳白帆吟社

〔神奈川〕

荻原美和子・堀井 勉

〔静岡〕

神奈川県川柳協会

下田川柳黒潮吟社

〔山梨〕

川柳一の枝・川柳 轍

〔新潟〕

山倉 洋子・中越柳壇吟社

十日町川柳研究社

〔長野〕

柳都川柳社

中曾根恭子・川柳美すゞ吟社

川柳六文銭上田吟社

長野県川柳作家連盟

川柳えんぴつ社

〔富山〕

〔富山〕

富山番傘川柳会

〔愛知〕

名古屋川柳社

〔岐阜〕

小林 映汎

〔滋賀〕

小椋 忠雄

〔京都〕

京都番傘川柳会

〔奈良〕

植野美津江・川柳塔なら

〔和歌山〕

三宅 保州

〔大阪〕

赤松ますみ・天根 夢草

板尾 岳人・田中 螢柳

田中 新一・徳山みつこ

西山春日子・本田 智彦

真鍋 修・森中恵美子

あかつき川柳会

くらわんか番傘川柳会

サークル檸檬・城北川柳会

川柳天守閣・川柳藤井寺

川柳文学コロキウム

よどがわ川柳

兵庫

赤井 花城・長島 敏子
平山 繁夫・矢沢 和女

鳥取

川柳あしなみ・時の川柳社
野火の会・ふあうすと川柳社
大山滝句座

岡山

鳥取県川柳作家連盟
弓削川柳社

広島

小島 蘭幸・弘兼 秀子

香川

志麻番傘川柳会

徳島

竹原川柳会・広島川柳会

愛媛

さぬき番傘川柳会

高知

橋本 昭典・石井川柳会

福岡

徳島番傘川柳会

長崎

川柳さいじょう吟社

佐賀

川柳とべ吟社・川柳のむら

大分

川柳まつやま吟社

長崎

竹崎たかひろ

佐賀

古谷龍太郎・福岡県川柳協会

大分

西村 正紘

長崎

永石 珠子・平井 義雄

大分

泉 談亭・進藤すぎの

大分

大分県番傘川柳連合会

沖繩

川平朝義ほか・覧のぶなが

便利な川柳カレンダー (Google) のご案内

日川協ではグーグル (Google) アプリを使い、後援を受けた大会等の案内を行っています。

皆さまもこの便利なツールを使って、柳社の大会案内などをしてみませんか！

グーグル I D : nissenkyou

パスワード : 575nissenkyou

入力の仕方はとても簡単
是非お問い合わせ下さい。

その他、日川協ホームページでは便利な川柳ツールがあります。

◇ 句会案内

◇ 暗合句検索

日川協のホームページでは過去の大会記録や川柳マップで全国の柳社の所在地を見ることが出来ます。

ぜひ一度、日川協のホームページをご覧ください。

あなたの句集を電子出版しませんか！

電子出版ってどうしたらいいかわからないと、出版する前に多くの人が諦めてしまうのが現実です。これでは非常にもったいないですよ。このように、面倒なことは全て日川協が請け負います！
そうです！あなたは原稿を提出するだけで電子出版することが出来るのです。



基本料金
150,000円
税抜き

(紙本20冊を含む)

平成28年度（6月26日）

第2回理事会 東西合同常任幹事会 通常総会

場所 愛媛県民文化会館

定足数の確認のあと議事録署名者選出

東西常任幹事会・総会 議案

議案第一号 平成27年度事業報告承認

議案第二号 平成27年度収支決算報告承認の件

報告第一号 平成27年度監査報告の件

議案第三号 任期満了に伴う監事選任の件

報告第二号 全国大会表彰の件

その他

理事会 議案

フリーターキングにて討議が行われた。

右の議案案件について審議の結果、理事会、総会で承認された。

第9回川柳文字賞

正賞「葉桜の坂」 山崎夫美子
準賞「大倉山登」 山本喜太郎

大会連続出席者

連続10回参加

大野 直之

連続15回参加

笹島 一江

中澤 巖・中沢 広子

松尾 和香・平田 朝子

連続25回参加

米島 暁子

マスコミ柳壇の指導を10年以上行った者

米島 暁子・金子美知子

森中恵美子・村上 氷筆

長谷川博子・宮本 仙舟

特別表彰

大木 俊秀

第12回80歳以上の功労者顕彰

高田寄生木・大坂 斗昇

植野美津江・井原みつ子

古野つとむ

協会運営に貢献のあった方

佐々木文子



日川協 総会

第40回愛媛大会選者

第一部 事前投句選者

「野球」 竹田光柳選

「船」 仁多見千絵選

「電車」 小梶忠雄選

「遠い」 青砥たかこ選

第二部 当日投句選者

「迎える」 三宅保州選

「笑顔」 佐藤孔亮選

「マドンナ」 古谷龍太郎選

ジュニア部門

「タオル」 山本毅選

「電車」 及川竜太郎選

「自由に作る」 山倉洋子選

第二次選者

大野風柳・久保田 半蔵門

平田朝子・平山 繁夫

塩見草映

（順不同・敬称略）

正味財産増減計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	33,305	19,777	13,528	
受取入金	27,000	15,000	12,000	
柳社入会金	21,000	3,000	18,000	
個人入会金	6,000	12,000	△ 6,000	
受取会費	5,109,000	5,949,000	△ 840,000	
理事会費	360,000	576,000	△ 216,000	
常任幹事会費	2,880,000	3,000,000	△ 120,000	
正会員会費(団体)	1,785,000	2,219,000	△ 434,000	
正会員会費(個人)	84,000	154,000	△ 70,000	
普及向上事業収益	15,427,602	14,701,552	726,050	
誌上大会	4,100,161	3,480,000	620,161	
電子出版	1,182,600	1,263,600	△ 81,000	
全国大会(事前)	1,889,000	1,784,001	104,999	
全国大会(当日)	5,352,681	5,610,139	△ 257,458	
表彰後援事業	190,436	252,992	△ 62,556	
選考協力事業	2,712,724	2,310,820	401,904	
受取補助金等	0	0	0	
受取寄付金	510,000	1,000,000	△ 490,000	
雑収益	0	0	0	
経常収益計	21,106,907	21,685,329	△ 578,422	
(2) 経常費用				
事業費	19,247,340	19,439,873	△ 192,533	
給料手当	3,758,580	3,700,858	57,722	
臨時雇賃金	348,590	317,140	31,450	
退職給付費用	142,500	142,500	0	
旅費交通費	663,130	536,860	126,270	
通信運搬費	1,313,980	1,463,796	△ 149,816	
支払手数料	2,484	5,724	△ 3,240	
消耗品費	271,452	268,899	2,553	
印刷製本費	3,405,534	3,557,092	△ 151,558	
光熱水料費	113,596	108,893	4,703	
賃借料	1,185,153	1,185,153	0	
保険料	41,055	45,492	△ 4,437	
諸謝金	2,160,640	1,993,880	166,760	
表彰後援費	487,965	503,447	△ 15,482	
実行委員会運営費	5,352,681	5,610,139	△ 257,458	
雑費	0	0	0	
管理費	1,976,894	1,809,685	167,209	
給料手当	197,820	194,782	3,038	
退職給与費用	7,500	7,500	0	
福利厚生費	29,402	11,688	17,714	
会議費	249,546	243,050	6,496	
旅費交通費	286,380	224,350	62,030	
通信運搬費	69,157	77,042	△ 7,885	
支払手数料	756	4,644	△ 3,888	
消耗品費	14,287	14,153	134	
印刷製本費	84,995	0	84,995	
光熱水料費	5,979	5,731	248	
賃借料	62,376	62,376	0	
保険料	0	10,050	△ 10,050	
法定福利費	638,288	627,599	10,689	
租税公課	70,000	70,000	0	
接待交際費	7,240	7,060	180	
雑費	253,168	249,660	3,508	
経常費用計	21,224,234	21,249,558	△ 25,324	
当期経常増減額	△ 117,327	435,771	△ 553,098	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
退職給付取崩益	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
(該当なし)	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期正味財産増減額	△ 117,327	435,771	△ 553,098	
一般正味財産期首残高	5,822,516	5,386,745	435,771	
一般正味財産期末残高	5,705,189	5,822,516	△ 117,327	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	21,000,000	21,000,000	0	
指定正味財産期末残高	21,000,000	21,000,000	0	
III 正味財産期末残高	26,705,189	26,822,516	△ 117,327	



監 査 報 告 書

一般社団法人全日本川柳協会

理 事 長 大野 英雄 殿

平成 28 年 4 月 21 日

一般社団法人 全日本川柳協会

監 事 天根利徳 
監 事 秋田 尚 

私は、平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日までの第 24 期会計年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類及び公益目的支出計画実施報告書の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の損益及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認める。
- (4) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

第40回 全日本川柳 2016年 愛媛大会

(当日参加者 686名/事前参加者 1,862名/ジュニア参加者 17,361名)

文部科学大臣賞

百年後笑顔になれる樹を植える 東京 伊藤 良彦

参議院議長賞

木の椅子の温さはマドンナの温さ 福岡 梅崎 流青

川柳 大賞

つるし柿ひとり息子は帰らない 青森 高瀬 霜石

大会賞

図書館でわたしの海へ船を出す 宮城 鎌田 京子

命あるものが命を出迎える 佐賀 真島久美子

二両目はふたりの指定席でした 宮城 丸山あずさ

産声は船出いのちの帆を揚げる 新潟 若林 柳一

ラファエロの聖母にふつと君の貌 福岡 時津みつこ

マウンドのガッツ女神を引き寄せる 愛媛 坂上 俊子

笑い皺という勲章が母にある 愛媛 高畑 俊正

空っぽのわたし祭日も遠くなる 岡山 西村みなみ

甲子園ドラマへ神も手を添える 埼玉 上野さざ音

何度重ねてもミモザの黄に遠い 愛知 樋口 りゑ

すばらしい冒険だった夫婦船 大阪 吉道あかね

ジュニア部門

愛媛県知事賞

広げると水平線が出るタオル
愛媛大学教育学部附属 中1 江口雄有斗

松山市長賞

タオルでね自分の心みがくんだ
愛媛 石井 小3 門脇 巧真

愛媛県教育長賞

ひなあられ一つくださいおひなさま
広島 大竹 小2 柴田 珠羽

松山市教育長賞

せーのでね地きゆうが回ったさか上がり
愛媛大学教育学部附属 小2 田中 陽奈

全日本川柳協会賞

車窓から宮城の海に祖母想う
宮城 宮城学院 中2 浅野 夏希

おこらすなおれのじいちゃん黒おにだ
愛媛 さくら 小3 重森 幸輝

教育新聞社賞

新学期白いタオルと同じ色
千葉 睦 中2 小川 華音

でんしやでねいけないことがあるからね
広島 佐方 小1 木村みさき

妊婦さん私がゆずるこの席を
愛媛 三島南 中1 高橋 伽菜

第9回川柳文学賞受賞作品

正賞 『葉桜の坂』 山崎夫美子
準賞 『大倉山発』 山本喜太郎

2016年6月25日、愛媛県・大和屋本店にて授賞式が行なわれ、平山繁夫選考委員をはじめ、多数の川柳家にお集まりいただき、賞状、盾と副賞10万円が、受賞された山崎夫美子氏に手渡されました。また、準賞を受賞された山本喜太郎氏には賞状、盾、副賞3万円が手渡されました。

第9回川柳文学賞は平成27年に発刊された句集のうち、申請のあった18冊を選考委員（久保田半蔵門・平山繁夫・雫石隆子・佐藤美文・林えり子（作家）5名（敬称略））が選考しました。

■ 総評 選考委員・平山繁夫

葉桜の坂について久保田委員は、郷愁の中で奈良を巧みに作品に取り入れる作家だ。古都奈良を背景に歴史を現代川柳の手法で詠んでおられる。多少言い回しに固さが残る。現代川柳を代表する作家だと思う。

同じく雫石委員は、一読して作品の安定感を思う。女性作家によく見る嫺々たる女々しさはない。大和の全てに目を凝らし、あくまでテーマは人事である。作家としての姿勢、立ち位置に少しも揺らぎはない。作品、句集の風体も『川柳文学賞』に何一つ欠けるものがない。

同じく佐藤委員は、奈良は歴史もあり、自然が豊かである。何処を切りとつても理解してもらえ、共感も得られる土地柄である。作者の故郷であるようである。だから独り善がりにならず、表現もベテランらしく安定している。意識したテーマでなかったかも知れぬが、奈良のイメージを膨らませた。

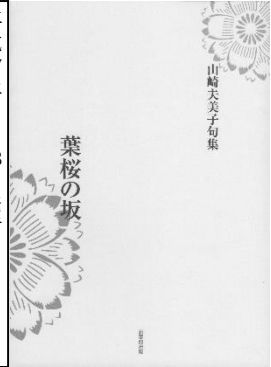
同じく平山は従来の説明的原形保存の意識であるよりも暗示的、飛躍的な表白によって今日の新しい時代層を満足させ得る方法を作者は模索している。この象徴主義的な朦朧性が意識の場になることにより「晦渋」と伴走となる。作者山崎氏がこの詩的思考を如何に成熟させ得るかそれが作家生命への階である。大倉山発について、林えり子委員は、久しぶりに「川柳」の魅力进行を思い知った作品です。川柳のなじみのない人がふいに「赤い羽根売りの声が背にささり」の十七文字が浮かび、そこが入口で句集上梓できるまでなるとは……。句は社会観と詩性の合体がある。

山崎 夫美子 氏



■ 主な掲載作品『葉桜の坂』

野に春の言葉溢れて手をつなぐ
また今日も西日を許す磨崖仏
万葉の恋歌巡る野末まで
道祖神 ここにも村があった空
葉桜の坂なら君達の手を離す
初恋のときめき阿修羅に辿りつく
桜散らせて一気に逃げる面童子
角伐りの鹿放たれて揺らぐ天
托鉢の椀の深さを知るさくら
仏画師に退屈すぎる昼の雨
大和格子の外は仏の息遣い
遠景に塔ある暮らし幾千年

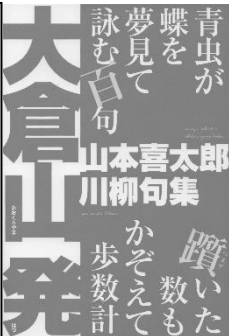


平成27年2月23日発行
A5版ソフトカバー・140頁
新葉館出版 定価1400円(税別)

■ 主な掲載作品『大倉山発』

鉄錆が臭うと人が降る気配
針箱に見る母さんの小宇宙
アニメなら描ける男の黙示録
豆を抱く莢の形は母に似る
抜け道も至るローマと書いてある
残価ゼロ捨てても惜しくない鑑
肋骨を一本冷やす野菜室
叙勲には縁なし今日も一万歩
胴切りのフランスパンの骨密度
症候群エスカレーターでも歩き
絵手紙を撫でてスマホの街にする
ネクタイで括れば棄てる本が哭く

山本 喜太郎 氏



平成27年7月4日発行
四六判ソフトカバー・192頁
新葉館出版 定価900円(税別)

平成28年度 80歳以上の功労者略歴

(敬称略)

青森県

高田 寄生木



昭和8年6月2日生
昭和35年 河北新報へ
川柳投稿・川内川柳社同人、昭和36年 青森県川柳协会会员、昭和40年「川柳かわうち」の編集人となり、機関誌発行を開始、昭和46年「川柳かもしか」編集長となる。昭和58年多数の精鋭川柳家を発掘した「Z賞」の創設と編集に関わる。平成15年「北貌」を創刊。編集・発行人となる。
著書・句集「夜の駱駝」他

神奈川県

大坂 斗昇



大正15年10月15日生
昭和22年 吉田一斗に師事し川柳を始める。
昭和24年 雷吟社(浅草)同人、昭和25年 東京三人会発会、昭和27年 中央川柳社同人、東京産業会発会、昭和41年 川柳白帆吟社の同人となり山本卓三・三太亡きあとの同社再建に尽力。そ

の後新流社を設立し約10年にわたり若手川柳家の育成に努める。
平成13年 安野呑酔病臥を受けて、川柳黒潮吟社代表に就任(平成27年迄)
著書・句集「斗昇曼荼羅」

奈良県

植野 美津江



昭和8年5月16日生
平成2年4月 やまと番傘川柳会入会、平成7年9月 番傘川柳本社同人、平成19年6月 日川協常任幹事
平成12年3月 句集「秋桜」発刊

愛媛県

井原 みつ子



昭和11年4月2日生
昭和53年4月 川柳を知る。昭和57年11月 川柳峠社同人、平成2年4月 番傘川柳本社同人、同年11月にはま川柳会創立、平成6年10月 国民文化祭・みえ三重県知事賞受賞、平成8年2月 愛媛県川柳文化連盟より個人表彰、同年11月 川柳句集母

子草」上梓、平成12年第15回国民文化祭・ひろしま大会賞、平成13年2月 愛媛県川柳文化連盟理事、平成15年6月(社) 全日本川柳協会常任幹事、平成17年4月 新居浜市生涯学習大学・生きがい創造学園川柳講師(現在に至る)、平成18年4月 NHK学園川柳添削講師(現在に至る)、同年10月 東部ニューギニア慰霊の旅 句文集上梓、平成22年6月(社) 全日本川柳協会理事

福岡県

古野 つとむ



昭和5年8月31日生
昭和32年 北九州市八幡西区大辻炭坑(株)の職域川柳会・天辻番傘川柳会に入会。安武九馬・鷹野青鳥の指導を受ける。昭和36年 大辻炭坑坑内火災の大惨事で川柳会解散。その後、戸畑番傘の復活に参加したが、すぐに解散となり、その後はフリーで作句活動を継続。その後中断。
平成15年 川柳くらがね吟社・小倉番傘川柳会に入会、平成16年 川柳くらがね吟社同人、平成22年 川柳くらがね吟社副主幹及び北九州川柳作家連盟事務局担当となり、連盟主催行事の企画・運営を担当。
受賞歴 平成17年 川柳くらがね川柳大賞、平成23年 第26回国民文化祭京都 京都府実行委員会会長賞、平成26年 川柳くらがね大賞

全日本川柳誌上大会のご案内

(平成柳多留第20集)

日本の全柳人が、だれでも、どこからでも参加できる「全日本川柳誌上大会」(平成柳多留第20集)を開催します。日川協年次大会・国民文化祭文芸大会と並ぶ(一社)全日本川柳協会の権威ある三大大年間行事ですので、こぞってご参加ください。

一般社団法人 全日本川柳協会

理事長 大野 風 柳

出版委員長 河 内 天 笑

課題と共選者 (各題2句・連記)

「記念」 熊谷 岳 朗 — 坂 下 清 共選

「外」 山 田 昇 — 牧 野 芳 光 共選

「働く」 渡 辺 貞 勇 — 長 島 敏 子 共選

「扉」 上 田 健 太 — 西 山 春 日 子 共選

「グルメ」 いしがみ 鉄 — 福 本 清 美 共選

第二次選者 久保田 半蔵門 赤井 花城 雫石 隆子
天根 夢草 長谷川 酔月

参加費 2000円 (投句料・『平成柳多留』第20集代金含む)
賞 平成柳多留賞・川柳大賞・NHK会長賞
日本青少年育成協会会長賞・全日本川柳協会賞
全日本川柳誌上大会賞 (予定)

締切 平成29年1月31日(火)〈当日消印有効〉

発表・表彰 第41回全日本川柳札幌大会 (平成29年6月)

参加方法 参加用紙に記入し、参加費2000円(振替又は小為替)とともに下記へご送付ください。

〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1-11-905

一般社団法人 全日本川柳協会

電話 (06) 6352-2210

FAX (06) 6352-2433

振替口座 00970-9-3575

今後の全国大会予定

▼ 札幌

平成29年6月18日(日)

京王プラザホテル札幌

▼ 熊本

平成30年6月

今後の国民文化祭予定

▼ 愛知

平成28年11月20日(日)

犬山市民文化会館

▼ 奈良

平成29年11月12日(日)

かしはら万葉ホール

▼ 大分

平成30年秋

(元常任幹事)

平成28年6月以後(敬称略)

謹んでお悔み申し上げます。

逝去日

役職

お名前

年齢

8 / 17

元常任幹事

波多野五楽庵

88

8 / 28

元常任幹事

平井 吾風

85

第10回 川柳文学賞募集

日川協では川柳の普及向上を目的として、毎年1年間に出版された川柳個人句集のうち、もっとも優れた川柳句集に対して「川柳文学賞」を授与しています。

平成28年1月から12月末日までに刊行した句集6冊及び同句集の概要説明書を含む平成29年1月末日までに当協会の「川柳文学賞」選考委員会宛にお送りください。沢山のご応募お待ちしております。

編集後記

★台風10号による東北、北海道方面の大雨の被害が予想以上に大きかった。被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。

★リオ五輪で日本はメダル41個と過去最高の活躍だった。2020年の東京大会が楽しみです。

★第40回愛媛大会の特徴として、ジュニアの投句が過去最高で1万7千件を超したこと、スタッフの皆様のご尽力で大会そのものがスムーズに進行、感謝します。

★1頁に大野理事長が挨拶の中で、川柳を選ぶことと語ることの調和を誇りたいと述べた意味を噛みしめたいと思います。

★今や川柳界も多色化の傾向で、「何でもあり」の感があります。やはり基本的には人間川柳であることを忘れてはいけません。

★先般、熊本地震への救援募金をお願いしたところ2頁のように全国柳社、個人から心温まる義援金が集まりました。有難うございました。

★秋の愛知県下犬山での国民文化祭川柳の祭典に多数のご出席とご支援をお願いいたします。

(事務局長 本田智彦)